

質的研究法——TEA（複線経路等至性アプローチ）

講師.. 荒川歩（武蔵野美術大学）

◆月例会 特別企画

言語文化教育研究学会 work shop

場所：早稲田大学 22 号館 601 教室

日時：9 月 5 日（土）14:00~17:30（多少の延長あり）

定員：30 名（先着順）

申込先：monthly@alce.jp

（言語文化教育研究学会・月例会委員会）

申込締切：8 月 10 日（月）*定員に達し次第、
締切りとさせていただきます。

申込方法詳細：<http://alce.jp/monthly/>

参加費：会員 1,000 円 非会員 2,000 円

企画主旨

TEA は、時間の流れとシステムを捉えるという特徴を持ち、人びとのライフの過程や選択などを考察する質的研究法の一つです。今回、言語文化教育研究学会では、心理学を中心に急速に発展しているこの研究法のワークショップを企画しました。言語教育とは何か、それは、その教育に関わるものたちの生き方を考えずに論じることができません。生きることと学ぶことの意味を捉えるための方法論について共に考えることができればと思います。

（企画者：三代純平，武蔵野美術大学）

企画概要

複線経路・等至性モデルで使われる TEM 図はいろいろな書き方があり、「正しい書き方」があるわけではありませんが、初めて描く人は戸惑うことも多いと思います。そこで、今回のワークショップでは、「複線経路・等至性モデルの TEM 図の描き方の一例」（立命館人間科学研究, 25,95-107）にそって、TEM 図を描いてみます。参加予定者は、8/31 までに「研究を始めてから TEM に関心を持つまでの経緯」というテーマで、時間順にきっかけ・出来事や考えの変化の経緯が分かるように 600 字程度（± 200 字）の文章を書いて担当の荒川（arakawa アットマーク musabi.ac.jp）に送付してください。その際に、専任教員の方は専任になってからののおおよその年数、それ以外の方は院生・ポスドク・非常勤などの身分を書いてください。当日は班に分かれて皆さんの書いたこの文章をもとに TEM 図を作成します。年数などの情報は同じくらいの人が同じ班になるようにするためにのみ用います。（講師：荒川歩）

参考文献：

荒川歩・安田裕子・サトウタツヤ (2012).

複線経路・等至性モデルの TEM 図の描き方の一例『立命館大学人間科学研究』25, 95-107.